

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## On the religious feeling of the university students

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2003-09-30<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 關岡, 一成, Sekioka, Kazushige<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/800">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/800</a>                |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 大学生の宗教意識について

—— 神戸市外国語大学における意識調査を中心として ——

關 岡 一 成

## はじめに

筆者は、10年余にわたり毎年担当する「世界の宗教」(宗教学)の講義において、主にNHK放送文化研究所が「現代日本人の意識調査」の中で宗教・信仰に関するアンケートで使用している設問を用いて無記名のアンケートを実施してきた。今年度で定年退職するのを機に、これまで比較的受講者の多かった年のアンケート結果をまとめてみた。

幸い「神戸シルバーカレッジ」と「神戸婦人大学」で講義を依頼された際にも同じアンケートを実施した結果があるので、それらの回答との対比をすることによって学生の宗教意識の特色をより鮮明にすることができた。

本稿においては、対象の学生数がほとんど同じであった1997年(147人)と2003年(149人)のアンケート結果を中心とし、参考のために1994年・1995年・1997年・1999年・2003年の合計603人の平均を「全体」として表示した。これらの年度の実施日・性別・年齢別の人数などは「注1」に記した。それぞれの年には22歳以上の受講者の回答もあるが、今回の結果には含んでいない。

また、「神戸婦人大学」の対象者も40代—60代の296人に限り「婦人大学」と表記して結果を記した。アンケートの実施日や年代別の人数については「注2」に記した。さらに、「神戸シルバーカレッジ」も対象を60・70代の240人に限り「注3」で実施日・男女別の人数などを記し、文中では「シル

バー」と表記した。

## 1. 特定の宗教を信仰している学生

どれぐらいの学生が宗教に直接かかわっているのでしょうか。これを知るために「特定の宗教を信仰していますか」という質問を設けた。これに対する回答結果は次のとおりである。

|         | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 信仰している  | 5.4%  | 6.7%  | 10.9% | 21.6% | 37.5% |
| 信仰していない | 93.9% | 92.6% | 88.4% | 77.7% | 60.4% |
| 無 回 答   | 0.7%  | 0.7%  | 0.7%  | 0.7%  | 2.1%  |

学生で特定の宗教を信仰しているのは、97・03年調査では1割に満たず、全体としても1割ほどである。これを40代—60代の婦人大学の21.6%、60代・70代のシルバーカレッジの37.5%と比較するとかなり少ないといえる。一般に言われるように、加齢に従って特定の宗教を信仰する者が増加することをこの数字は如実に物語っている。

1割に満たない学生が特定の宗教を信仰しているのであるが、具体的にはどのような宗教なのであろうか。この設問に限り、「信仰している」と回答した者に記入欄を設けて具体的な宗教名を記してもらった。その結果、97年の8人の内訳は、仏教3人・キリスト教3人・天理教1人・無記1人であり、03年は、仏教3人・キリスト教3人・金光教1人・崇教真光1人・無記2人である。他の年も大体同じようなものである。

日本におけるキリスト者数は、人口の約1%と見られているが、自覚的・意識的に信仰している学生においては、仏教信仰者と匹敵する数で、多いことが特徴といえる。

では、特定の宗教を信仰している学生は1割にも満たないとなると、残り

の9割の学生は無信仰者なのか、というところではない。なぜなら、次のようなアンケート結果があるからである。

「宗教とか信仰とかに関係すると思われることがらで、あなたが信じているものがありますか。もしあれば、リストの中からいくつでもあげてください」との設問で「神」「仏」「聖書や経典などの教」「あの世・来世」「奇跡」「お守りやおふだなどの力」「易・占い」などを挙げ、最後に「宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは何も信じていない」を挙げた。<sup>(4)</sup>

このリストで、最後の「宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは何も信じていない」に回答する学生が9割を占めておれば、「特定の宗教を信仰している」以外の学生は無宗教者・無信仰者と断定できるのであるが、これに回答したのは1割5分にも満たない少数の学生である。

| 97年   | 03年   | 全体    | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 13.2% | 13.4% | 11.9% | 15.9% | 14.6% |

加齢するに従い宗教的になるとされ、実際特定の宗教を信仰する者は婦人大学さらに高齢者の多いシルバーカレッジで増えているのであるが、「無宗教・無信仰」の学生は婦人大学やシルバーカレッジの中高年より少ないのは注目に値する。

このアンケート結果から、第一に指摘できることは、学生で特定の宗教を信仰する者は1割弱であるが、自らを無宗教・無信仰者とする学生も1割強に過ぎないということである。

では、学生が特定の宗教ではなく、信じているものはどのようなものであろうか。学生がリストから選んだ回答から見ることにしたい。

## 2. 学生の宗教性

先ず「神」「仏」「聖書や経典などの教え」といった伝統的な宗教に係す

ることがらへの回答率を示すことにしたい。

|            | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 神          | 34.0% | 27.5% | 32.5% | 37.5% | 38.8% |
| 仏          | 24.5% | 16.1% | 20.6% | 35.5% | 44.2% |
| 聖書や経典などの教え | 14.3% | 11.4% | 16.1% | 25.3% | 24.6% |

学生で「神」を信じるものは、27.5%、「仏」を信じる者は16.1%であり、「聖書や経典などの教え」は11.4%である。60代・70代のシルバーでは法事などを通して仏教に深くかかわるようになり「神」より「仏」を信じる割合が多いが、学生の場合はその年度の結果でも「仏」より「神」の方が10ポイント余多いのが特徴である。また、表には示されていないが、「仏」を選択した学生の7割ほどが「神」も同時に選択して回答していることが挙げられる。「神」と「仏」を同時に信じるシンクレティズムは日本人一般に見られる特徴で、これはほぼ中高年についても同じである。ただ、学生の場合は、「神」だけを選択して回答している率が高いといえる。

「聖書や経典などの教え」を信じる学生は、特定の宗教を信仰している者を中心として1割強である。

特定の宗教を信仰するほど自覚的ではないにしても、「神」「仏」「聖書や経典などの教え」を選択する学生は、かなり宗教性のある学生としてよいであろう。しかし、上述のように「神」「仏」「聖書や経典などの教え」を選択する学生は少ない。

「宗教とか信仰とかに関係すると思われることがら」のリストから、学生が選択した回答で最も高率であったのは「奇跡」であり、次いで多いのが「あの世・来世」であった。

|        | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 奇 跡    | 52.4% | 53.7% | 49.9% | 21.6% | 11.7% |
| あの世・来世 | 38.8% | 40.3% | 38.8% | 16.6% | 9.2%  |

神や仏は信じなくても「奇跡」だけを信じると回答している学生は多い。実に53.7%の学生が「奇跡」を選択している。97年と03年を比較しても「神」「仏」が減少しているのに対して、「奇跡」「来世」は増加していることも注目すべき点であろう。

しかも、この数字の特徴は、婦人大学・シルバーカレッジとの対比でより鮮明となる。学生の03年の53.7%とシルバーカレッジの60代・70代の11.7%とでは実に42ポイントの差である。

また、「奇跡」と比較すれば、天国や地獄を説かない宗教はほとんどないので、より宗教的なことがらといえる「あの世・来世」も、「あの世・来世」が身近と思われるシルバーが1割に満たないのに、学生が4割も信じていることも、学生の顕著な特徴といえる。

「お守りやおふだなどの力」と「易・占い」も中高年より学生が信じる割合の多いものである。

|             | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| お守りやおふだなどの力 | 29.3% | 35.6% | 30.2% | 19.3% | 17.5% |
| 易 ・ 占 い     | 23.8% | 22.1% | 20.6% | 10.8% | 4.2%  |

これらの結果から、第二に指摘できることは、伝統的に宗教的・信仰的なことがらとされる「神」「仏」「聖書や経典の教え」を信仰する学生は少ないが、「奇跡」「来世」「お守り・おふだ」といった前者と比べると宗教性が薄いと見られるようなものを信仰する学生が多いということである。

### 3. 宗教行動

次に、学生は宗教行動としてどのような行動をしているのであろうか。先ず挙げられるのは、墓参りであろう。

「1年に1・2度墓参りしますか」の設問に対する「はい」の回答は7割に及ぶ高い率である。

|     | 97年   | 03年   | 婦人大学  | シルバー  |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| はい  | 71.0% | 69.8% | 87.8% | 89.2% |
| いいえ | 29.0% | 30.2% | 12.2% | 10.4% |
| 無回答 | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.4%  |

このように、墓参りや法事に参加する学生が多いこともあり、家がどの寺の檀家であるかを知っている学生も過半数に及んでいる。当然のことながら、親を亡くして葬式を中心になって執行した中高年には及ばない数字ではあるが。

「家の宗教を知っていますか」

|       | 97年   | 03年   | 全体    | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 知っている | 58.5% | 61.8% | 62.7% | 96.6% | 97.5% |
| 知らない  | 41.5% | 36.2% | 35.8% | 2.7%  | 2.1%  |
| 無回答   | 0.0%  | 2.0%  | 1.5%  | 0.7%  | 0.4%  |

次に、年中行事としての宗教的行動として挙げられるのは、初詣であろう。墓参りほどではないが、それでも5割ちかい学生が初詣を行っている。

「今年初詣に行きましたか」

|        | 97年   | 03年   | 全体    | 婦人大学  | シルバー  |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 行った    | 45.6% | 45.0% | 47.3% | 70.6% | 71.7% |
| 行かなかった | 54.4% | 55.0% | 52.7% | 29.4% | 27.5% |
| 無回答    | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.8%  |

「墓参り」や「初詣」のような年中行事ではないが、学生が最も切実な思いで行った宗教行動として挙げられるのは「合格祈願」であろう。アンケート

トでは、親兄弟・友人も選択肢に入れたが、「本人」が直接合格祈願したケースが6割である。

「合格祈願に行ったことがありますか」

|            | 97年     | 03年     | 全 体     |
|------------|---------|---------|---------|
| 行 っ た      | 77.6%   | 83.9%   | 77.6%   |
| (本 人)      | (59.2%) | (63.1%) | (58.9%) |
| (親 兄 弟)    | (16.4%) | (17.4%) | (15.7%) |
| (友 人)      | (2.0%)  | (3.4%)  | (3.0%)  |
| 行 け な かつ た | 22.4%   | 16.1%   | 22.4%   |

学生の宗教行動に関して指摘できることは、儀式化・習慣化した年中行事に参加する学生が多いことである。特に、日本人の宗教の中心になっている祖先崇拜とかかわる宗教行事に参加する学生が多いことは注目に値する。また、初詣や合格祈願には、現世利益的な信仰心が見られる。

#### 4. 宗教と科学

大学生として合理性を尊び科学的であることが求められる学生にとって、宗教と科学の問題はどのように考えられているのであろうか。

「科学が進歩すれば、神秘的なものは、すべて説明がつくようになると思いますか」

|               | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 説 明 が つ く     | 8.2%  | 11.4% | 9.0%  | 8.4%  | 12.5% |
| そ う は 思 わ な い | 91.8% | 88.6% | 90.7% | 89.9% | 82.9% |
| 無 回 答         | 0.0%  | 0.0%  | 0.3%  | 1.7%  | 4.6%  |

ほぼ9割の学生が、科学が発達すれば宗教は存在しなくなる、とは考えていないことがわかる。



1945年の終戦以後20数年にわたり、画期的な新技術が開発され、科学に対する絶対的な信頼がおかれていた。しかし、公害問題や核兵器開発の脅威などにより、人々は科学万能主義・合理主義に懐疑的になってきているといえる。科学主義に対する懐疑は全世代にわたっており学生だけの特徴ではないことも注目する必要がある。

また、科学主義においては否定される「魂」とか「霊」に対して学生はどのように考えているのかについても質問した。

「魂」の存在については、シルバーの過半数が「どちらとも言えない」を選択したのに対して、学生の過半数が積極的に「信じる」を選択しているのが特徴である。

「魂の存在を信じますか」<sup>(5)</sup>

|           | 学 生   | シルバー  |
|-----------|-------|-------|
| 信 じ る     | 57.9% | 28.4% |
| 信 じ な い   | 17.6% | 8.6%  |
| どちらとも言えない | 24.5% | 63.0% |

「霊」についても、存在を肯定する学生が多いが、以下の3つの設問に対しても、肯定する学生の割合は、中高年より多い。

「次のようなことがよく言われますが、あなたはそういうことが実際にあると思いますか」

(1) 死んだ人の霊がわれわれを見守っている

|       | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| は い   | 63.3% | 67.8% | 63.2% | 56.8% | 49.2% |
| い い え | 36.7% | 30.9% | 35.5% | 40.5% | 46.2% |
| 無 回 答 | 0.0%  | 1.3%  | 1.3%  | 2.7%  | 4.6%  |

(2) 恨みを残して死んだ人の霊がさまよってでてくる

|       | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| は い   | 44.9% | 57.7% | 48.6% | 20.3% | 12.9% |
| い い え | 55.1% | 42.3% | 50.2% | 74.3% | 73.8% |
| 無 回 答 | 0.0%  | 0.0%  | 1.2%  | 5.4%  | 13.3% |

(3) 先祖のたたりで子孫が不幸な目にあう

|       | 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| は い   | 17.0% | 20.1% | 18.7% | 9.5%  | 10.8% |
| い い え | 83.0% | 79.9% | 79.8% | 82.4% | 76.3% |
| 無 回 答 | 0.0%  | 0.0%  | 1.5%  | 8.1%  | 12.9% |

97年と03年の対比では、いずれも「はい」が03年で増加しており、中高年との比較では「はい」において10ポイント以上の差があるが、なかでも「恨みを残して死んだ人の霊がさまよってでてくる」は30ポイントの差があり、注目されるところである。近年テレビや映画でこの種のことからを題材にしたものが多いのが学生に影響しているのであろうか。

それでも「先祖のたたりで子孫が不幸な目にあう」となると、「いいえ」を選択するものが8割であり、ここでも現世利益的な点が見られる。

## 5. 宗 教 観

上述のような具体的な設問に対する回答とともに「宗教観」として次のような6項目を挙げてアンケートをとった。

「あなたの宗教観はどれに該当しますか」

(1) 宗教は人生にとって大切なものである

| 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 29.9% | 22.8% | 27.5% | 46.3% | 57.9% |

(2) 宗教は老人のものである

| 97年  | 03年  | 全 体  | 婦人大学 | シルバー |
|------|------|------|------|------|
| 2.0% | 1.3% | 1.0% | 0.3% | 0.0% |

(3) 宗教は病気・貧乏・人間関係の争いの解決を説く迷信的なものである

| 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学 | シルバー |
|-------|-------|-------|------|------|
| 11.6% | 22.1% | 16.6% | 3.7% | 2.9% |

(4) 宗教は単なる儀式・習慣である

| 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 28.6% | 36.9% | 28.0% | 37.8% | 36.3% |

(5) 宗教は恐ろしいものである

| 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 25.2% | 34.9% | 25.4% | 10.1% | 7.5% |

(6) 宗教は困った時の神頼みである

| 97年   | 03年   | 全 体   | 婦人大学  | シルバー  |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 31.3% | 34.9% | 33.3% | 28.4% | 12.5% |

無回答・その他

| 97年  | 03年  | 全 体  | 婦人大学 | シルバー |
|------|------|------|------|------|
| 4.1% | 0.0% | 5.1% | 0.7% | 0.8% |

(複数回答した者があり、100%を超えている)

「宗教は人生にとって大切である」を肯定する学生は、特定の宗教を信仰する学生が1割に満たないことから当然低い数字が予想されるが、それでも2割強の学生は宗教が大切であるとしている。

「宗教は老人のものである」に関しては、筆者の35年の「宗教学」の講義の経験からはこの項目に回答する学生は2・30年前には多かったように思う。例えば、22年前の「宗教学」の受講者の意見を挙げてみる。

私は、高校時代からわりと宗教というものに興味があったので倫社など好きだったんですが、友人に言わせると「宗教なんておばんくさい！」

らしいのです。だいたい日本人にとっては、「宗教」というと「仏教」を思い浮かべ、老人が仏壇に向って念仏を唱えるような暗いイメージがある。(1年・女子)

僕が宗教に対して抱くイメージは、年老いた人たちが人生を長く生きてきて、生きがいとなるようなものを何もかも失なった時に、これからの生きがいというものを求めるためにすぎるものということです。(1年・男子)

我が家は浄土真宗で、家には仏壇があって、毎月一回お寺さんがやって来て「なまんだぶ」を唱え、何年かごとに法事を行い……というように、宗教を形式的な事としかとらえていなかった。毎夜熱心に仏壇の前に座ってぶつぶつやっているおばあちゃんを見て、「ああ、そのうち私も年をとったらやり出すんやろなあ」と思った。宗教=老人というイメージが漠然とあったらしい。(1年・女子)<sup>(6)</sup>

核家族化が進み、ここ2・30年で、家庭において日常的に仏壇に向う老人の姿を見ることが大幅に減ったこともあるいは影響しているのであろうか、「宗教は老人のものである」とする意見は学生においてもほとんど見られなくなった。

新宗教を信仰する人たちの入信の動機は、病気・経済苦・人間関係の悩みなどがほとんどであるが、宗教がそれらの問題を解決する迷信的なものであるとする学生は22%である。

六つの宗教観の内、最も支持する者が多かったのは「宗教は単なる儀式・習慣である」の36.9%である。学生の宗教行動が、墓参りが約7割、初詣する者が約5割いることから考えれば当然かもしれない。ただし、「宗教は単なる儀式・習慣である」を肯定する回答率が中高年でもほとんど学生と変わらないことは日本人全体の宗教観として注目に値する。

宗教観として「宗教は困った時の神頼みである」を支持する学生も34.9%と多い。

「宗教」。僕にとっては、なんとなく「いやだなあ」と思わせる言葉です。なんとなく古くさいような、バカバカしいような……。でも、僕が宗教とは全く関係ないとは思いません。他の人にだっていえる事だと思います。「宗教なんて信じない。神や仏なんているはずもない」そういう切ることは絶対に出来ないと思います。例えば、合格祈願や家族の誰かが重い病気にかかった時などの、もうどうしようもないところまで追いつめられた時には、必ず「ああ、神さま！」と思うはずだから。

(1年・男子)<sup>(7)</sup>

これは前述の「宗教は老人のもの」とする学生の記述と同じ22年前の学生の意見であるが、現在の学生にも通じるものがあり、共鳴するものがあることと思う。97年と03年との対比でも、この項目に対する回答率はそれほど変動していない。

「宗教は恐ろしいものである」を肯定する学生は、97年の25.2%から03年には34.9%と大幅に増加している点も注目に値する。自爆テロと結びつけられて報道されるイスラム原理主義や白ずくめ団体の報道がこの数字に影響していることも考えられる。

ちなみに、白ずくめ団体に関する報道が過熱していた時期に『AERA』誌でこの団体に関するアンケート結果が出ていたので、筆者も同じ設問でアンケート調査を行った。その結果は次のようなものであった。

「新興宗教について信仰することについてどう思いますか」<sup>(8)</sup>

|                  | 学 生   | AERA |
|------------------|-------|------|
| (1) 個人の自由だから構わない | 59.1% | 53%  |
| (2) 好ましいことではない   | 18.9% | 23%  |
| (3) どちらとも言えない    | 22.0% | 22%  |
| (4) わからない        | 0.0%  | 2%   |

「白ずくめ団体をどう思いますか」

|              | 学 生   | AERA |
|--------------|-------|------|
| (1) 危険だと思う   | 34.6% | 34%  |
| (2) 少し危険だと思う | 39.7% | 46%  |
| (3) 危険だと思わない | 10.7% | 9%   |
| (4) わからない    | 15.0% | 12%  |

「電磁波は人体に悪影響を及ぼすと思いますか」

|           | 学 生   | AERA |
|-----------|-------|------|
| (1) 思 う   | 57.9% | 57%  |
| (2) 思わない  | 12.6% | 17%  |
| (3) わからない | 29.5% | 27%  |

不可解な行動をする白ずくめ団体には、危険と思いつつも、信教の自由という視点から新興宗教を信仰することには理解を示し、この団体が主張する電磁波の悪影響については、肯定的である。これは、科学に対する懐疑心とも通じるものかも知れない。

なお『AERA』の資料には「マクロミル社のネットリサーチで、年齢・職業を問わない男性261人、女性260人から回答を得た。小数点以下四捨五入」と記されているが、結果は驚くほど学生の回答と類似しており、今回筆者が対象とした学生の意識がそれほど偏った宗教意識でないことを証明するもののように思える。

む す び

朝日新聞社による「定期国民意識調査」の結果が、2003年1月8日の紙上に掲載された。<sup>(9)</sup> その中で、宗教・信仰に関するものとして「あなたは、宗教や信仰に関心がありますか。関心はありませんか」の設問があり、それに対する回答が「関心がある13% 多少関心がある10% 関心がない77% そ

の他・答えない0%』という数字が記され、「宗教や信仰に『関心がある』『多少関心がある』を合わせると23%で、78年の39%から大幅に減った。『関心がない』人が77%（78年60%）にのぼった。宗教は現代人の不安の受け皿には、なっていないようだ」とコメントしている。

確かに、大学生の場合も前述の結果に明らかなように、97年と03年の対比で「神」「仏」「聖書や経典などの教え」を信じる者は減少し、否定的な宗教観ともいえる「宗教は病気・貧乏・人間関係の争いの解決を説く迷信的なものである」「宗教は恐ろしいものである」が10ポイントも増加し「宗教は単なる儀式・習慣である」「宗教は困った時の神頼みである」とする学生も増加している。

しかし、「奇跡」「あの世・来世」「お守りやおふだなどの力」を信じる学生は増加し、魂や霊の存在を肯定する者は多く、積極的に「無宗教・無信仰」と回答する学生は97年と03年ではほとんど変わりなく1割強にすぎない。

学生が「神」「仏」「聖書や経典などの教え」という伝統的な宗教・信仰的なものでなく、「奇跡」「来世」を信じる者が多いことについては、NHK放送文化研究所の意識調査でも大学生としてではないが若者の意識調査の結果として70年代後半からこの現象が顕著になったとして、次のように記している。

七〇年代後半、若者を中心に急増した「信仰・信心」は、「神か仏」に対するものより、「霊的なことがら」に対するものの比重が大きかった。それも多くの部分が、つぎにあげるようなメディアがもたらした大衆文化の影響であろう。すなわち、ベストセラーとなった『日本沈没』（七三年）や『ノストラダムスの大予言』（七四年）の終末観、テレビ番組に登場したユリ・ゲラーによるスプーン曲げの超能力（七四年）、『エクソシスト（悪魔祓い）』（七四年）など一連のホラー映画が描くオカルト世界、映画『犬神家の一族』（七六年）のヒットによる横溝正史の再評価と、それにつづく伝奇小説が描く民俗的怨霊の世界などであり、こ

これらの系譜は『リング』や『らせん』（九八年）のヒットなど今日に至るまで根強く続いている。そして、前近代的・神秘主義的サブ・カルチャーにひかれた若者の心のどこかには、石油ショックや環境破壊などによってもたらされた将来に対する不安感が存在したであろうし、これらを入口にして、本格的な「信仰・信心」の世界に入っていった若者もいるであろう。<sup>(10)</sup>

70年代のこのような文化の影響の延長線上に現代の大学生の宗教意識があるものと考えられる。<sup>(11)</sup>

### 注

(1) 神戸市外国語大学 学生 603人

1994年4月14日 100人（男性31, 女性69）

1995年4月27日 138人（男性28, 女性110）

1997年5月13日 147人（男性47, 女性100）

1999年4月15日 69人（男性15, 女性54）

2003年4月10日 149人（男性34, 女性115）

|     | 1994年 |    | 1995年 |     | 1997年 |     | 1999年 |    | 2003年 |     |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|-----|
|     | 男     | 女  | 男     | 女   | 男     | 女   | 男     | 女  | 男     | 女   |
| 18歳 | 16    | 40 | 10    | 44  | 23    | 59  | 3     | 26 | 20    | 79  |
| 19歳 | 8     | 16 | 5     | 28  | 13    | 23  | 8     | 19 | 8     | 18  |
| 20歳 | 2     | 6  | 5     | 18  | 5     | 11  | 4     | 5  | 3     | 12  |
| 21歳 | 4     | 7  | 6     | 11  | 2     | 5   | 1     | 2  | 3     | 3   |
| 22歳 | 1     | 0  | 2     | 9   | 4     | 2   | 0     | 1  | 0     | 3   |
|     | 31    | 69 | 28    | 110 | 47    | 100 | 16    | 53 | 34    | 115 |

(2) 神戸婦人大学 296人

2000年6月14日 121人 40代・21人 50代・67人 60代・33人

2001年6月27日 175人 40代・25人 50代・65人 60代・85人

(3) 神戸シルバーカレッジ 240人

2002年7月15日 80人

60代・66人（男性31, 女性35） 70代・14人（男性10, 女性4）

2002年11月27日 79人

60代・63人（男性44, 女性19） 70代・16人（男性14, 女性2）

2003年6月25日 81人

60代・61人（男性31, 女性30） 70代・20人（男性15, 女性5）

(4) 「宗教とか信仰とかに関係すると思われることがらで、あなたが信じているものがあります



か。もしあればリストの中からいくつでもあげて下さい」

|                                       | 97年   | 03年   | 全体    | 婦人大学  | シルバー  | NHK (98) |
|---------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| (1) 神                                 | 34.0% | 27.5% | 32.5% | 37.5% | 38.8% | 32%      |
| (2) 仏                                 | 24.5% | 16.1% | 20.6% | 35.5% | 44.2% | 39%      |
| (3) 聖書や経典などの教え                        | 14.3% | 11.4% | 16.1% | 25.3% | 24.6% | 7%       |
| (4) あの世・来世                            | 38.8% | 40.3% | 38.8% | 16.6% | 9.2%  | 10%      |
| (5) 奇跡                                | 52.4% | 53.7% | 49.9% | 21.6% | 11.7% | 14%      |
| (6) お守りやおふだの力                         | 29.3% | 35.6% | 30.2% | 19.3% | 17.5% | 14%      |
| (7) 易・占い                              | 23.8% | 22.1% | 20.6% | 10.8% | 4.2%  | 6%       |
| (8) 宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは何も信じていない | 13.2% | 13.4% | 11.9% | 15.9% | 14.6% | 30%      |
| (9) その他・無回答                           | 2.7%  | 0.0%  | 18.0% | 3.4%  | 3.3%  | 7%       |

\* 「NHK」は、NHK 放送文化研究所編『現代日本人の意識構造』（第5版）日本放送出版協会、2000年、131頁より。

- (5) このアンケートは、学生については、2003年5月22日に159人（男31，女128）を対象として実施したものであり、シルバーカレッジは、2003年6月25日に81人を対象として実施したものである。
- (6) 拙稿「大学生の宗教観について」『出会い』（日本キリスト教協議会宗教研究所発行）7巻2号、1982年1月、34頁。
- (7) 同上、35，36頁。
- (8) 『AERA』2003年No.22。68，69頁。学生の方は、（注5）と同じ時（2003年5月22日）に159人を対象として実施した結果である。
- (9) 調査方法は「全国の有権者から選挙人名簿で3千人を選び、昨年12月1，2の両日、学生調査員が個別に面接調査した。有効回答数は2,019人。有効回答率は67%。回答者の内訳は男性46%，女性54%。対象者の選び方は層化無作為2段抽出法」であると記されている。
- (10) NHK 放送文化研究所編，前掲書，134，136頁。
- (11) 戦後50年の各種の宗教意識調査結果を踏まえて現代の日本人の宗教観を考察した書物が、石井研士『現代日本人の宗教』新曜社、1997年である。この書物には戦後50年間に行われた宗教に関する主な世論調査が「資料」として掲載されており、参考になる。本稿では、筆者が実施した意識調査とこの書物で紹介されているデータとの比較などはスペースの関係もあり、行うことはできなかった。しかし、この書の「現代若者の宗教性」の中で「マスコミなどで若者の神秘的な物への関心の高さが指摘されることがあるが、『超常現象・神秘主義，その他の話題についての関心・経験』に関する一連の設問においてもそうした事実を確認することはできない。（中略）超常現象をみると、臨死体験や前世・生まれ変わり、死後の世界の存在の三つは『信じる』『ありうる』とする肯定回答が、否定回答を上回っている。しかしこれらの項目は日本人全体に高いのであって、若者特有の関心の高さを示すものではない」（84頁）とする見解には納得できない。既述のように、「奇跡」「来世」や霊的・神秘的なことがらについては、明らかに中高年との間に顕著な相違が見られ若者特有の関心と言えないのではないかと思う。

(2003. 8. 17)